

【端午の節供】五月五日こどもの日

端午は月の初めの午の日という意味で、五月は午の月に当たるので重午(ちようご)、午の月の午の日)が選ばれ、重五となり、五月五日に固定しました。



武士の時代になってからは、勇壮な行事が端午に集中する傾向となり、さらに尚武(武を尚ぶ)と菖蒲の音通から雛節句と対照する男子の節供とされました。飾り物としては、外飾りとして武者絵の幟、鯉幟、内飾りとして兜や武者人形があります。この人形は八幡太郎(源義家)や加藤清正、楠木正成など、尊敬する人物を飾りました。

【楠公祭】五月二十五日

「建武中興」に大きな功績のあった楠木正成が殉節された日。



後醍醐天皇をお守りしていた人達は、次々と北条氏の軍に捕えられ、斬られて、全くひどい時代でした。そのような時、天皇さまは、不思議な夢をご覧になりました。

一本の大木があつて、南にのびた枝の葉が、よく生い茂っており、その下にりっぱな青畳が高く敷き重ねられてあり、南に向いてすわれるようになってあります。どこからともなく二人の子供があらわれて、天皇さまの「前にひざまずき、『あの木蔭のところで、ゆっくりお休みできるところです。』と、さっきの木の下を指さしたかと思うと消えてしまいました。天皇さまは、不思議に思われ、南の枝が茂った木、南の木と考えられ、楠木という姓の人がい

て、自分を助けてくれるのではないかと考えつかれ、調べさせると、楠木正成という優れた武士が近くにいることがわかりました。

さつそく、楠木正成をよばれ、北条勢を討つようおさせられました。楠木正成は、命がけて天皇のお志にこたえることを誓いました。正成は知恵も深く武にも優れていたもので、いろんな戦術で敵を悩ませよく戦ったのですが、ついに戦死してしまいました。

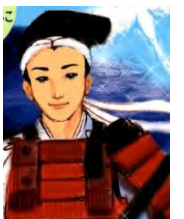
父の死を知った少年正行は、仏壇の前に座り、きりりとした瞳で短刀を手にして胸を開き、腹につきつけようとしました。ハッと感じた母は飛び込んで刀の手をしっかりと抑え、目に涙をためて厳しく正行を見つめました。そして、静かな声で父から子への最後の言葉を繰り返しました。

「七度までも生まれ変わって国のため世の中のために力を尽くせ」(七生報国)と…

正行の使命―それは父の志をついで天皇さまをお護りすることであると。正行は決心しました。弓、馬術、剣道、一日一日訓練が続ぎ、夜は勉強に励みました。

そして、二十二才の時、楠木一族の軍を率いて天皇さまをお護りする戦いに加わり、敵を打ち破りました。逃げる敵兵は、先を争って橋におしかけたため橋がいっぱいになり、五百人もの兵が下の川に落ちました。正行は、「この寒さでは、こごえ死ぬであろう」と、敵兵を助けて引き上げ、火にあたらせてやりました。引き上げられた兵は、正行のやさしい心に感激して正行の軍に加わりました。正行の戦いぶりの立派なのをみた賊軍は十万人の大軍で攻めてきました。正行の兵は、わずか三千です。

正行は、吉野に落ちられた後村上天皇に最後のお別れの言葉を申し上げ、後醍醐天皇のお墓参りして如意輪寺に立ち寄り、お寺の壁板に、今度の戦いには生きて帰らない覚悟です。討ち死にする者の名前を書き留めますという意味の和歌と一族の名前を書きました。



楠木正行は、四條畷というところで立派に戦い討死しました。

このまごころを貫いて天皇さまをお護りした楠木正成、正行父子が、神戸の湊川神社にお祭りされています。

ワンポイントアドバイス バランスのとれた心

現代は科学が発達し、便利な生活が出来るようになりましたね。海外にも会社をもつ企業のトップが「現代に必要とされる人材とは？」と聞かれ「まねなく成績の良い優等生より、他はそれほどでなくでも一つの事に秀でている人。」と応えていました。

出る杭を育てる時代でもあるそうです。座標軸に経ってこそ、「自分はこう思う」と言える生き方が出来るのだと思います。そこから責任のある行動も生まれます。そうしたバランスのとれた心をもった上で、古き良き時代の風習や所作、思いやりの心、先人の知恵などが身につけば、グローバルな現代でも自信をもって生きてゆけるのではないのでしょうか。そういう意味で寺子屋の精神を育んでいただければ、スタッフの一員として有難いと思います。

(越智京子)

# 和歌コーナー

たのしいね たらこやにきて たのしかったね

「くさ」とかいたよ またきてかくよ

5がかける 7もかけるよ おぼえたよ

ひとりでかける じがたのしいよ

年中 Y・M

☆みのりちゃん、はじめてのお習字をがんばりま  
したね。

はじめての おしゅうじかいた

おじぞうさんの よだれかけが たのしかったよ

年中 I・A

☆初めてのお習字。ふでを立てて、たのしくおじ  
ぞうさまがかけましたね。

おしゅうじを はじめてかいた おしぞうさん

たのしかったよ どきどきしたよ

年中 N・H

☆いきおいよく、元気いっぱいかいていましたね。

たらこやでおしゅうじじょうずにかけたよ

おじぞうさんがおもしろかった

年長 M・S

☆翔太くんのおじぞうさまは、とってもやさしそ  
うなえがおです。



おしゅうじで 十まいかいたよがんばったよ  
おじぞうさんとあわせて十一まいだ

小学一年 H・H

☆集中して、たくさん書いていましたね。よくが  
んばったね。

たらこやで ならがくさかった

すいせんもちよつとくさかった

ふしぎだなあ

小学一年 K・S

☆自然教室で、ならとすいせんのがいが学びま  
した。においをかいでちがいがわかりましたね。

たらこやで なべなべそこぬけ

みんなでしたよ

たのしかったよ てをつないだよ

小学一年 Y・T

☆みんなでやったら、たのしかったですね。

寺子屋の 子らに見せまし 藤の花

庭に残りし枝の一房

F・R



## 今月の論語

子、曰わく、

「君子は

言に訥にして。

行に敏ならんことを

欲す。」

(現代語訳)

孔子先生がおっしゃった。

「君子は、言葉がうまくなくても、行動は  
機敏でありたいと願うものだ。」

(解説)言葉ではうまく説明できない時も  
ありますね。でも、思いやりの気持ち忘れ  
ずに、素早く正しい行動がとれることが大切  
です。言葉よりも心のこもった行いのでき  
る人になりましょう。

「親子で楽しむ こども論語塾」(明治書院)より

今回は、六月二十三日(土)、6階 和室 です。

(文責・藤波)